

1 不登校児童生徒への援助に対する考え方

(1) 児童生徒の将来的な自立を目指しましょう。

「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指しましょう。また、児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分自身を見つめ直す積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクもあることに留意しなければなりません。

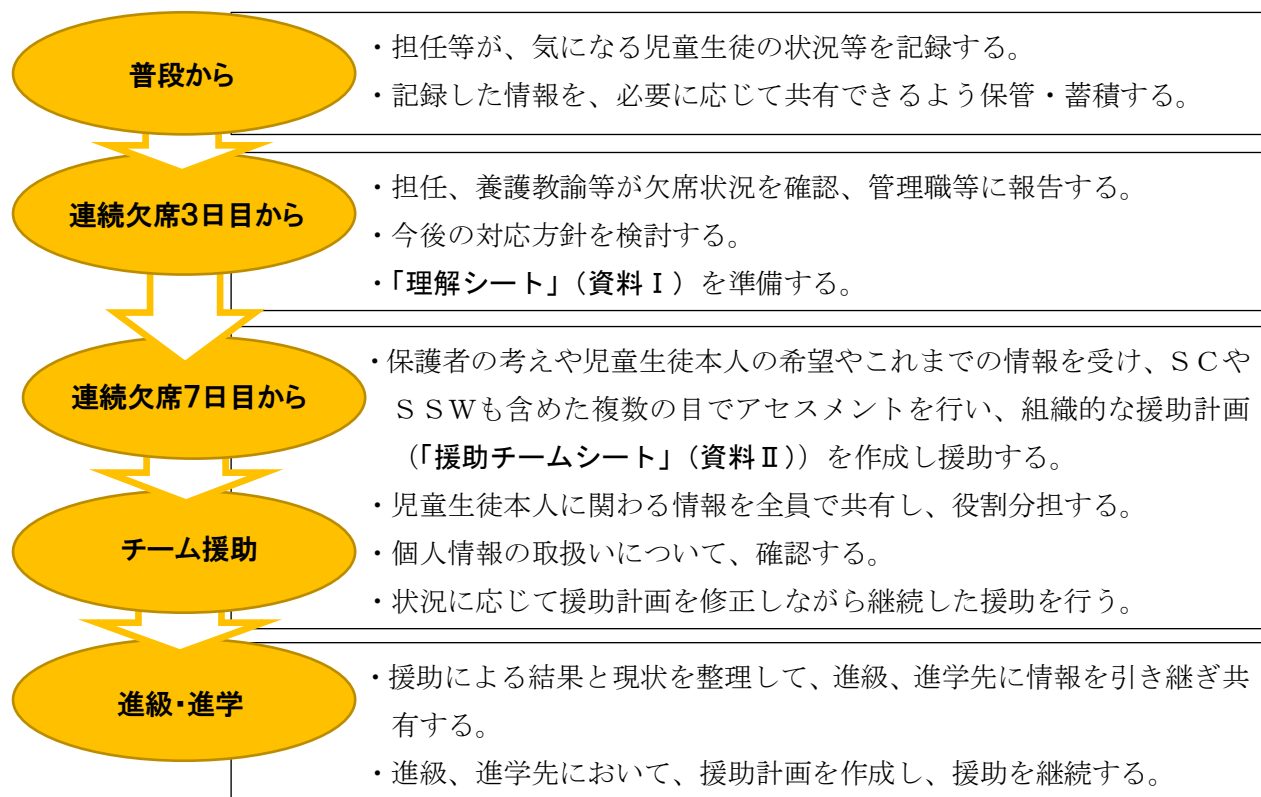
(2) 保護者と課題意識を共有しましょう。

家庭教育は、全ての教育の出発点です。児童生徒の状況によっては、福祉や医療機関と連携して、家庭の状況を把握し、適切な働きかけが必要な場合があります。そのために、保護者と課題意識を共有して、信頼関係のもと一緒に取り組む体制づくりが求められます。日頃の電話連絡や家庭訪問などを通して、保護者が気軽に相談できる体制を整えましょう。

2 学校における不登校児童生徒への援助の進め方

困っている児童生徒や不登校児童生徒が、将来、主体的に社会的自立や学校復帰に向かうよう一人一人の成長を見守りつつ、欠席のきっかけや継続理由に応じて、適切な援助を行いましょ。

一人一人の課題に対応した切れ目のない援助を行うために、次の図を参考に対応を進めましょ。「欠席3日目から」「欠席7日目から」は、あくまでも目安です。状況に応じた対応を行いましょ。



○ 進級や進学など、生活環境が変わるときに、欠席が多くなる傾向があります。以前に不登校となっており、現在は復帰した児童生徒についても引継ぎを行い、切れ目のないよりきめ細かな対応を心がけましょ。